

別の世界

然れば人の世は終つひに永久に暗黒なのでありましようか。しかし、それではじつとしいられない魂の声があります。

我等はここに全く別の世界のあることを知らされました。それは、親鸞聖人を通して仏の教えを聞かされたことでありました。聖人は決して、栄華にも、権勢にも、享樂にも、名利にも笑わなかつた人でありました。その聖人がついに「慶よろこばしきかな哉」と叫ばれたのはどうしたことであろう。人の世の泣くべきは泣き、苦しむべきは苦しんだお方が、暗の世をそのままに、不滅の歓びを獲得せられたのは、何故であろう。釈尊もまた、人生のありのままの中で五欲に満されず、悩みぬいたお方である。しかも最後には大歡喜に入られたではないか。私たちの心は、わけもなくこれにひきつけられます。その私たちに「これだ」と言つて授けられたのが大無量寿経でありました。

眞の人

私たちは、こうした第三の世界をのぞいてはじめて、過去にこの悩みを抱いて血みどろの精進をつづけた多くの尊い人を発見しました。名誉か富か、地位か権勢かと慄れた日には問題にもしなかつた人々の間にこそ、眞の人間、偉人聖賢のあることを知りました。そしてこの世の表に立たないそれらの人々こそ、世の表に躍つた人々よりも、もつと深く世を動かしていることを知りました。

悪魔は内に

我々はこの人々によつて、五欲の満足や、常識で考えていたことのまことに哀れにつまらなかつたことを知りました。のみならず、我等の慧命は、念々刻々に、我と我が持つ貪欲、瞋恚、愚痴等のために滅ぼされていることがわかりました。我を暗くし、悩まし、滅ぼす悪魔は全く心内に満ちていたのでありました。それが見えはじめた時、私のうちには、消せども消えぬ魂の聲が、私を懸命においたてています。

華園

大無量寿経の教えが身にせまつて来ます。いつしかに世の中の見方や、我の正体や、その他すべてに対する考え方の大まちがいがわかり、長い暗路を輪廻していたことが知らされる時、はじめて一切衆生の親にتماします尽十方無碍光如来の智慧光、大慈悲の世界がわかつて来ました。

光の国の扉は開かれた。眞の力の源泉は示された。南無阿弥陀仏こそ実に暗を照す唯一の光であり、一切を生かす絶対の力でありました。無量寿のいのち、尽十方無碍の光、今まで泣いた五濁悪世は、そのまま光の来りたもう園であった。

親鸞聖人！そはまことに我等の慈父にتماします。如来化身の師父にتماします。その教化の前にひれ伏して、如来のみ名を呼ぶ時、仰ぎ見ればこは如何に、生死の園、煩惱の林には、あまりにも多くの人格の華が咲いているではないか。

空には無数の星辰輝き、大地には偉偉いなる人格の華が咲く。

永遠に勝ちつづけて咲きにおえる大聖、菩薩大士、念仏の人、再び無条件に人生を華園であると絶叫することが出来る。

見よ、これらの華は、暗が深ければ深いだけ、いよいよ明瞭はつきりしと輝いていいるではないか。

忍力

『大無量寿経』に法蔵菩薩の永劫の修行を説いて曰く

「不可思議兆載永劫に於いて、菩薩の無量の徳行を積植し、欲覚、瞋覚、害覚を生ぜず、欲望、瞋想、害想を起さず、色声香味触法に著せず、忍力成就して衆苦を計せず。」と。

衆生は欲心と瞋恚と害心より外持たないものである。この三心の為に疲れ苦しみつゝ三悪道を出現しつゝ輪廻するのである。この衆生の濁悪の炎の中に、永久に忍力成就して、衆の苦しみを苦みとせず、無量の徳行を積みたもうの力が如来の本願でありました。

如来はまことに「願力」にてまします。一切衆生を生かしたもう金剛不壊の力にてまします。

浄華の園

見よ。大地の上に咲いた人格の華、念仏の希有華の上には、皆ことごとく同一なる願力が躍っているではないか。されば如来を「平等力」といいます。一切衆生の差別はそのままに、平等に生かしたもうが故であります。

「安樂仏土の依止は 法蔵願力のなせるなり

天上天下にたぐひなし 大心力を帰命せよ。」

如来は、天上天下にたぐいなき大心力であります。浄土も仏も菩薩もすべては、この大心力によつて成就莊嚴せられます。

光の世界を成就するたつた一つの力、一切衆生を生かしきるたつた一つの力、その光明の願力は南無阿弥陀仏として、生死の園、煩惱の林に廻入して、自然に法爾に多くの浄土の菩薩の華を生ぜしめる。

如来によつてのみ、人生はそのありのままが、美しき華園に転じます。如何に荒狂う日も、暗深き日も、大地はついに美しき浮浄華の園であった。論に曰く

「如来浄華の衆は、正覚の華より化生す。」と。